

# わらびて

131  
号



## 海辺に営まれた縄文ムラ

### 主な内容

- 平成 26 年度の成果  
・ 県埋蔵文化財センター
- 平成 26 年度に注目された  
遺跡
- 特集  
日本のストーンサークル
- 夏休み体験教室
- 埋蔵文化財展
- 埋蔵文化財公開講座  
遺跡報告会

浜川目沢田 I 遺跡は山田湾から北へわずか 200 m の低地に立地する縄文時代の遺跡です。昨年の調査で縄文時代中期後葉（約 4500 年前）と晩期前葉（約 3200 年前）の竪穴住居や貯蔵穴などがみつき、縄文時代、2 つの時期に営まれた集落（ムラ）であることが分かりました。

県内で縄文時代の集落といえば、山の中や小高い丘の上にあるイメージが強いですが、本遺跡は「海辺に営まれた縄文ムラ」であり、その立地に特色があります。遺跡からは穏やかな山田湾を一望でき（写真）、縄文人も同じ風景を眺め、漁のため海へと向かったのではないのでしょうか。

1 つの集落では使い切れないほど大量の土器や石器などが出土しており、本遺跡のみならず、その周辺にも集落が広がっている可能性があります。

縄文時代の集落は山だけでなく海までも、我々が想像するよりも自由に営まれていたのかもしれない。

（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 須原 拓

【所報名について】 「わらびて」は蕨手刀（わらびてとう）に由来しています。蕨手刀は、奈良～平安時代初期に使われた鉄製の刀で柄頭が早蕨（さわらび）の芽を巻いた状態に似ていることからこうよばれます。群集墳などから出土し、東北地方、特に岩手県で多く出土しています。

平成26年度

# 発掘調査の成果

公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

県埋蔵文化財センターでは、7市4町3村の43遺跡、175,513㎡を調査しました。表紙で紹介した浜川目沢田Ⅰ遺跡以外には、どんな成果があったのでしょうか。

復興工事に伴う事前調査は、面積全体の8割を占め、その中でも、三陸沿岸道路、通称「三陸自動車道」関係が全体の半分を占めています。

「三陸自動車道」は、現在の集落と山地の間の標高の比較的高いところを通るため、縄文時代の陥し穴、同 前～中期の集落跡、製鉄跡、中世城館が立地している場合が多く、実際の調査でも、そうした遺跡に当たっています。

## 縄文時代中期後半の大集落群

それにしても、宮古市～山田町にかけて縄文時代中期後半の大きな集落跡が数多く発見されました。内陸でも、この時期の大集落は多いのですが、表29の沢田Ⅲ遺跡と43の浜川目沢田Ⅰ遺跡の間は約3kmしか離れていません。自然の物を食べていた縄文時代では、近すぎて「なわばり」が重なってしまっていたはずですが、当時の山田町は、食べ物の豊富な非常に豊かな場所だったのでしょうか。沢田Ⅲ遺跡では、トチノミヤクリ、アサリなど当時の食物の残りが発見されており、今後の調査研究が期待されます。浜川目沢田Ⅰ遺跡では、遮光器土偶など沿岸では珍しい土・石製品が出土しています。

## 弥生時代の集落

弥生時代初めころの集落が、向新田Ⅲ遺跡(表25)で、同 後期の集落が、木戸井内Ⅵ遺跡(表38)で見つかっております。当時の集落跡は調査例が少なく、注目されます。

## 平安時代の製鉄集落？

荷竹日向Ⅰ遺跡(表27)では、中世城館になるような高地の斜面に非常に多くの平安時代竪穴住居跡が発見されています。同じ場所に何回も建てられ、中には、住居の床面に別の住居が埋まっているのを確認できた例もあり、古代では比較的珍しいです。製鉄関連の施設、出土品が多数発見されました。製鉄に都合の良いため、あえて住みにくい場所に居続けたのでしょうか。土器などの生活用品の出土は非常に少ないです。

伽羅之御所跡(表5)では、隣接する無量光院南辺に相当する堀跡、田鎖車堂前遺跡(表3)では、12世紀のかわらけなどを発見しました。



田鎖車堂前遺跡の小札(左奥)、かわらけ(右)ほか

中世城館では、伏津館跡(表17)の四面庇を持つ建物跡や15世紀の硯などの出土品が注目されます。また、高田城跡(表41)では、大規模な土木工事を行っているのに建物などの施設がほとんどないことが謎です。

平成26年度 県埋蔵文化財センターの発掘調査遺跡一覧

No	遺跡名	市町村	調査面積㎡	調査期間	事業名	遺跡の性格/調査成果	備考	
通常調査・6遺跡	1	中村	北上	18,290	4/7～12/22	北上川中流域河川改修事業	古代集落跡/奈良～平安時代竪穴住居 109・焼成土坑 69 ほか 北上川沿い自然堤防上に干刈遺跡から続く一大集落	来年度継続
	2	館岡Ⅱ	平泉	600	4/7～5/17	一閑遊水地事業	中世城館/上幅2、深さ2mの堀跡・竪穴建物1から永楽通宝 30枚ほか/瀬戸美濃産陶器ほか	近世屋敷跡
	3	田鎖車堂前	宮古	2,650	6/2～12/12	宮古西道路	奈良～平安前半集落/竪穴住居 18 / 12世紀/溝・井戸など/ かわらけ・中国産白磁・大甕小札・馬具・毛抜き鉄製品	たくさくくるまどうまえ 来年度継続
	4	千鶏Ⅳ地区	宮古	2,000	9/16～11/7	主要地方道重茂半島線地域連携道路整備事業	縄文時代中期末竪穴住居	ちけい4・来年度継続
	5	伽羅之御所跡	平泉	2,240	5/16～10/31	県道中尊寺通り改良事業	12世紀/掘立柱建物2・井戸/かわらけ	きやらのごしょ
	6	八幡沖	一関	5,110	9/24～12/19	地域連携道路整備事業折壁地区	縄文陥し穴7/中世城館/堀跡2・平場6/遺構少なく恒常的に使われた場でない	来年度継続
	7	//	一関	1,000	10/16～12/19	市道千刈田向山線道路改良事業	中世城館/墓穴から洪武通宝7	はちまんおき
	<b>遺跡数 6</b>	小計	31,890		<b>通常開発事業7件</b>			
復興調査・37遺跡	8	新里愛宕裏	遠野	3,000	5/21～9/3	東北横断自動車道釜石秋田線	縄文中期集落/複式炉竪穴住居3ほか/動物形土製品ほか	来年度継続
	9	九重沢Ⅲ	遠野	1,550	4/9～6/6	東北横断自動車道釜石秋田線	縄文後期集落/竪穴住居5ほか/後期中葉土偶・土鈴ほか	
	10	栃洞Ⅲ	遠野	2,330	10/6～11/27	東北横断自動車道釜石秋田線	縄文中期後葉集落/複式炉竪穴住居・陥し穴 17 ほか	近世墓
	11	平野原Ⅲ	遠野	1,120	9/1～9/30	東北横断自動車道釜石秋田線	縄文時代陥し穴 17	
	12	南川尻	洋野	6,340	9/4～10/30	三陸沿岸道路(久慈道路)	縄文集落跡/後期前葉竪穴住居・後期後葉竪穴住居・陥し穴 11 ほか	
	13	下向	洋野	2,400	4/9～5/12	三陸沿岸道路(久慈道路)	縄文時代陥し穴6	
	14	西平内ⅠにしひらなⅠ	洋野	3,250	6/2～11/28	三陸沿岸道路(久慈道路)	縄文時代後期前葉ストーンサークル?/外帯は直径40～50mの配石墓群・内帯列石を覆う整地層/鐔形・円盤状土製品・未成品を含む石片多い	来年度継続
	15	宇部館跡	久慈	1,950	5/7～9/19	三陸沿岸道路(久慈道路)	中世城館/堀2・土壘2・切岸2/コハフ	北側北ノ越遺跡隣接
	16	北ノ越	久慈	7,550	5/7～9/19	三陸沿岸道路(久慈道路)	縄文時代竪穴住居・陥し穴 16 / 平安時代竪穴住居/中世竪穴建物5・掘立柱建物2・カマド状遺構・火葬墓/中世は16世紀代の遺物主・中国産青磁	南側宇部館跡に隣接
	17	伏津館跡	野田	7,000	4/10～8/18	三陸沿岸道路(久慈道路)	縄文時代集落・陥し穴/中世城館/掘立柱建物4・武者走り状遺構/15世紀の狭い範囲の時期の出土品・茶・香・書・花道に用いる道具	来年度継続
	18	中平	野田	2,600	10/1～11/21	三陸沿岸道路(久慈道路)	縄文時代陥し穴 13 / 飛鳥～奈良時代の集落/竪穴住居3/紡錘車・コハフ	来年度継続
	19	上泉沢	野田	1,540	8/15～9/30	三陸沿岸道路(久慈道路)	縄文時代陥し穴 60 / 飛鳥～奈良時代の集落/竪穴住居7/コハフ	来年度継続
	20	力持ちからもち	普代	768	6/2～11/28	三陸沿岸道路(普代道路)	縄文時代前～中期集落/竪穴住居 67・粘土採掘穴ほか/土器大コンテナ 180箱・コハフ多量/縄文時代後期竪穴住居	
	21	青野滝北Ⅰ	宮古	4,200	4/10～9/19	三陸沿岸道路	縄文時代中期後葉～末集落跡/竪穴住居 15 ほか/石製有孔垂飾品2	あおのたききた1
	22	青野滝北Ⅱ	宮古	2,100	4/10～6/20	三陸沿岸道路	縄文時代中期後葉～末集落跡/竪穴住居2ほか/石製有孔垂飾品	あおのたききた2
	23	青野滝北Ⅲ	宮古	2,300	4/10～9/30	三陸沿岸道路	縄文時代中期後葉～末集落跡/竪穴住居3ほか	あおのたききた3
	24	高根こうね	宮古	2,690	4/9～11/14	三陸沿岸道路	急斜面に縄文時代中期後葉大集落/竪穴住居 32以上・フラスコ状土坑 57・捨て場/土器大コンテナ 173箱・骨貝類	来年度継続
	25	向新田Ⅲ	宮古	2,005	9/16～12/5	三陸沿岸道路	縄文時代前期初頭集落/弥生時代前～中期集落/宅地造成による地形改変	むかいしんでん3
	26	沼里	宮古	400	4/7～5/2	三陸沿岸道路	飛鳥～奈良時代の集落/竪穴住居5/土製紡錘車・土師器のミニチュア匙形	ぬまり
	27	荷竹日向ⅠにちくひなたⅠ	宮古	15,600	4/10～12/26	三陸沿岸道路	縄文時代陥し穴 52 / 平安時代集落/竪穴住居 69・竈間3・鍛冶炉5ほか/鉄滓多量/住居数の割に出土土器少なく大コンテナ 10箱/中世城館	来年度継続
	28	石峠ⅡいしとうげⅡ	山田	1,400	4/8～11/5	三陸沿岸道路	縄文時代陥し穴(様々な形) 101 / 縄文時代早期中ころ集落/前期前半集落/竪穴住居 17 / 中期後葉～末大集落/竪穴住居 77 / 中世墓地(人骨)	来年度継続
	29	沢田Ⅲ	山田	3,600	4/8～11/28	三陸沿岸道路	縄文時代前期竪穴住居/中期後半大集落/覆土から堅果類・獣骨・貝類が出土した竪穴住居ほか/奈良～平安時代集落/竪穴住居 13 ほか	前年度～
	30	間木戸ⅠまぎどⅠ	山田	7,660	4/8～12/22	三陸沿岸道路	縄文時代中期後半大集落/竪穴住居 100以上・土坑 180? / 縄文土器大コンテナ 334箱・土偶/古代集落/竪穴住居 11	来年度継続
	31	菅窪長屋構Ⅱ	田野畑	1,200	4/9～7/11	三陸沿岸道路	縄文時代中期後半集落/竪穴住居 4	すげのくぼながやかまえ2
	32	菅窪長屋構Ⅲ	田野畑	2,900	4/9～7/11	三陸沿岸道路	縄文時代中期集落/竪穴住居4/縄文時代後期竪穴住居	すげのくぼながやかまえ3
	33	沼袋Ⅱ	田野畑	3,695	7/7～9/5	三陸沿岸道路	縄文時代陥し穴 21 → 溝状 18・俵形 2・円形 1 / 逆茂木多い	
	34	沼袋Ⅲ	田野畑	950	7/7～9/5	三陸沿岸道路	縄文時代陥し穴7	
	35	田屋	大槌	3,600	9/16～12/19	三陸沿岸道路	古代製鉄/工房4・製鉄炉7・炭窯 10・排滓場/鉄床土・鉄滓多量	たや・来年度継続
	36	松磯	大槌	450	11/17～11/28	三陸沿岸道路	縄文時代中期集落/フラスコ状土坑 3	まついそ
	37	磯鶏石崎	宮古	618	5/23～6/30	宮古西道路	古代集落/時期不明炭窯	そけいいしざき
	38	木戸井内Ⅵ	宮古	3,240	4/10～5/27	宮古西道路	縄文時代中期後葉竪穴住居/弥生時代後期集落/土製紡錘車	きどいない6
	39	宮野貝塚	大船渡	375	4/7～5/30	警察施設災害復旧事業	縄文時代前・中・晩期土器ほか	
	40	赤前Ⅲ	宮古	6,627	4/8～9/10	防災集団移転促進事業	縄文時代中期中～後葉集落/竪穴住居22ほか/平安時代住居3	前年度前期末～中期集落
	41	高田城跡	陸前高	27,000	4/7～11/28	土地区画整理事業高田西地区	中世?城館/土輪 10 ほか/尾根を削って排土を縁辺部に版築・年代不明	来年度継続
	42	赤浜Ⅱ	大槌	1,875	11/4～12/18	土地区画整理事業赤浜地区	縄文時代前期中葉集落? / 十和田中坳火山灰に覆われた竪穴住居・配石	来年度継続
	43	浜川目沢田Ⅰ	山田	6,240	6/2～12/17	漁業集落防災機能強化事業大沢地区	縄文時代中期後葉集落/竪穴住居 18 ほか/晩期集落/住居状/縄文土器大コンテナ 437箱・小型造光器土偶/標高2～7m・海まで 300 m	はまかわめさわだ 1
	44	焼山	山田	1,500	4/7～6/20	防災集団移転促進事業	古代～中世鉄生産/工房3・製鉄炉 14・炭窯 13 / 羽口・多量の鉄滓	やげやま・前年度～
		<b>遺跡数 37</b>	小計	143,623		<b>復興事業 37件</b>		
		<b>総遺跡数 43</b>	<b>総計</b>	<b>175,513</b>		<b>総件数 44件</b>		

## 特集 平成26年度に注目された遺跡

### 竪穴住居跡から土偶が出土

小瀬川 I 遺跡 (花巻市)・縄文時代中期

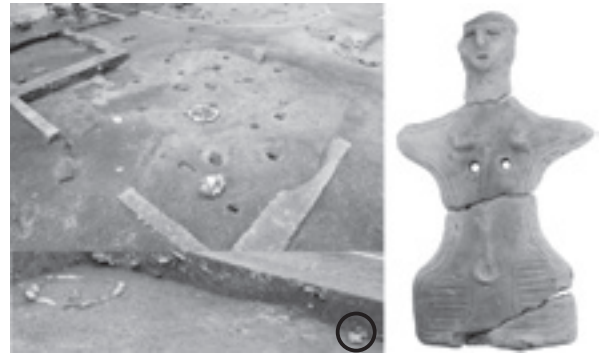
小瀬川 I 遺跡は、花巻市の南西部に位置し、奥羽山脈東縁から北上川へ向かって流れる鍋割川の左岸段丘面上に立地します。標高は約 120 m で、鍋割川河床から約 10 m の比高があります。

今回の調査は、小瀬川地区の圃場整備に伴うもので、本来県が行う予定でしたが、震災復興に伴う発掘調査量が増大したことから、花巻市が間接的な復興支援として調査しました。

平成 25 ~ 26 年度の 2 年間にわたる調査の結果、本遺跡が広場を中心に、掘立柱建物群→貯蔵穴群→竪穴住居群と遺構が配置する環状集落であることがわかりました。出土した土器のほとんどが大木 8 a 式期で、他の時期のものが極めて少ないことから、限られた期間の遺構や遺物を知ることができる貴重な遺跡であること

がわかりました。出土した土偶には頭部から脚まで全体の様子が見えるものがあり、縄文時代中期中葉期 (大木 8 a 式期) の土偶を研究する上で貴重な資料を追加することができました。

花巻市教育委員会 千葉 悟



(左上) 土偶が出土した竪穴住居跡  
(左下) 土偶の出土状況 (黒丸内) (右) 土偶 (大木 8 a 式期)

### 大型建物群を発見！

堂の前貝塚 (陸前高田市)・縄文時代ほか

当遺跡は、宮城県境をまたぐ広田湾の北側、標高約 30m の高台上に位置しています。検出した遺構のうち縄文時代に属するものには、中期、後期を主体とする竪穴住居 10 数棟、食糧などの貯蔵穴 20 数基、調理場所と考えられる集石土坑などがあります。

特筆されるのは、2 間×7 間の長大な掘立柱建物です。各柱穴の平面形は 1 m 程度の方形です。以前、隣接する道路の調査で、この建物と柱筋を直行させて配置する 2 間×5 間の掘立柱建物が確認されています。建築構造からは、柱間の寸法が長いなど、規格上での更なる大型化がうかがえます。これら建物の立地と配置から、「L」字又は「コ」字形に整然と建てられた何らかの施設であった可能性が考えられます。この仮説に立てば 2 間×5 間の建物が、氷

上山 (874m) を北に背負い南面して建つ施設の中心建物であったようです。建物に伴う遺物が出土していないため、時代や性格は不明です。

陸前高田市教育委員会 加藤 隆也



調査区全体 (南西から)

## 縄文時代前期・古代の大集落発見!

つがるいしおもり  
津軽石大森遺跡 (宮古市)・縄文時代・奈良～平安時代

津軽石大森遺跡は、宮古市津軽石地区の標高約 10 m の東向きの緩斜面上にあります。宮古市初とされる遺構・遺物が相次いで確認され、新たな宮古の歴史がみえてきました。

まず一つ目は、約 6000 年前の縄文時代前期の大規模な集落跡が見つかったことです。確認された竪穴住居は実に 80 棟以上にものぼります。これら全ての竪穴住居が同時に建っていた訳ではありませんが、それでもこの時期に繰り返し同じ場所に住んでいたことが分かりました。

二つ目は約 1,300 年前の奈良時代にも大規模な集落であったことです。この時代の歴史書である『続日本紀』の 715 年の記事には「閉村」、「昆布」などの文字がみられ、岩手県沿岸部のことが書かれているとされています。まさにその時代に宮古に住んでいた人たちの営みの一端がみえてきたといえます。

この他、平安時代に建てられた<sup>ひさし</sup>庇付掘立柱建物やその周辺から出土した青銅製の分銅は市内では初めて確認され、沿岸部における有力者の存在が浮かび上がってきました。

宮古市教育委員会 長谷川 真



古代の竪穴住居から出土した土師器

## 謎の方形周溝群

だいにちまえ  
大日前遺跡 (奥州市江刺区)・平安時代

大日前遺跡は、奥州市江刺区田原に位置し、北上川左岸の伊手川と人首川の間に立地します。遺跡から北へ 2.5km には豊田館跡があります。

今回の発掘調査では、9・12 世紀の遺物が多く出土する河道跡や、9 世紀の掘立柱建物跡などが見つかりました。

伊手川に接する調査区では、周溝を共有する方形周溝 5 基が見つかりました。方形周溝の集合体と考えられますが、時代を特定する遺物が出土していないことなどから、その性格はよくわかりません。しかし、調べてみると、県内には同じような検出例があり、経塚や墳墓などの 12 世紀の宗教関連施設と考えられています。これに関連して方形周溝群の東隣には溝跡が見つかりました。深さ 1.5 ~ 2 m あり、12 世紀のかわらけや木製品が多く出土しました。

想像してみると、方形周溝群と溝跡は同じ 12 世紀代の遺構と考えられ、これらの遺構がなんらかの関連性を持った宗教的な施設であることも考えられます。

奥州市埋蔵文化財調査センター 遠藤 栄一



方形周溝群

# 特集

# 日本のストーンサークル

## —— 西平内 I 遺跡と千本松遺跡 ——

### 継続は力なりー主な配石遺構

北海道南部～東北地方北部の縄文時代後期前葉(今から約3,700年前)には、大湯環状列石(ストーンサークル)に代表される大規模な配石遺構が見られます。墓の上に石を立てたり、あるいは墓に関係なく石を並べることは、縄文時代には珍しくありません。列石の途中に配石墓(石を並べた墓)や石を組むことも見られますが、この地域・時期が特別なのは、10 m以上にもなる規模の大きさです。

おそらく“継続性”(造られた期間)が他と大きく異なるのです。造る前に大規模な土木工事(削平や整地)が行われることもあり、“計画性”と言った方が良いかも知れませんが、調査で発見された形は、“途中”を感じさせるものが少なくありません。すなわち、円の途中に枝が出ていたり閉じていないものも多いのです。

### とこしない 十腰内 I 式土器文化から誕生!

大規模な配石が見られる地域は、十腰内 I 式土器が分布あるいはその影響を強く受けた範囲です。十腰内 I 式土器文化は、様々に特徴的な文物を生んだ、亀ヶ岡式土器文化に並ぶ優れた文化です。十腰内 I 式土器文化の文物の一つに、切断蓋付土器というのがありますが、大規模な配石遺構は、この分布と重なります。

切断蓋付土器も埋葬に関係すると言われていきます。十腰内 I 式土器文化は、埋葬に関心が高く、死者・祖先を敬う気持ちが強かったのでしょう。その中でも、石棺墓は、人の大きさの穴を掘り周囲を扁平な石で箱形に組んで蓋石をした埋葬施設で、石の中には一人を持ち上げられない程の重さのものがある立派なものです。これ

は、ほぼ青森県以外には見られませんので、十腰内 I 式土器文化の中心は、青森県にあったと推測されますが、大規模配石遺構で最も立派なものは、今のところ秋田県の大湯環状列石です。形が整っている点(日時計に象徴される)と配石墓の多さが他と比べものになりません。

### 西平内 I 遺跡と千本松遺跡

西平内 I 遺跡では、青森県に近いのか、外帯・内帯という本場のものと近い構造をしています。大湯環状列石の黒又山のように、大規模配石遺構は付近の代表的な山が見える場所にあるという説があり、西平内 I 遺跡でも階上岳が望めます。この遺跡が他と異なるのは、崖上に造られ、配石を埋めて整地されていることです。

千本松遺跡は、学術調査ですが、始まったばかりですので、今後の調査が大いに期待されます。



▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲ 北海道～東北地方における後期前～中葉の主な配石遺構 ▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲

No.	県	遺跡名	全体 (列石)		組石単位の有無	墓穴の有無	備考
			平面形	規模m			
1	北	忍路	楕円	33 × 22	大型立石の周り小石	×	中央 3.7 × 4 m環状配石あり・一部二重、張出列石
2	北	鷲ノ木5	近接二重円	37 × 34	× (列状)	未確認?	中央 4 × 2.5 m長方形? 配石あり
3	青	稲山	C	径 32	組石	×?	中央配石墓3・外周フラスコ状土坑 500 基
4	青	小牧野	二重隅丸方	径 29 と 35	小牧野式、一部列	未確認?	中央 2.6 m環状配石あり・一部三重、張出・整地・遺物多
5	青	太師森	不整・C~円	45 × 40	組石	○	中央土器棺墓2・東隣接石棺墓群他・外遺物多
6	青	一ノ渡	複合		組石	一部	底辺3m長さ15mの長台形も
7	青	水上	連続不整		組石	未確認?	全体階段状?
8	秋	野中堂	円	径 44	組石	◎	中央内帯・外帯の間に日時計
9	//	万座	不整円	径 52	組石	◎	中央内帯・間に日時計・周囲掘立柱建物巡る
10	//	一本木後口	弧状	75 × 15	組石	○	列石が沿う
11	秋	高屋館跡	円?	径 30	組石	○	攪乱で全容不明・中央配石・周囲掘立柱建物巡る
12	秋	伊勢堂岱	円	径 32	小牧野式組石	○	張出・近接して掘立柱建物
13	//	// (B)	弧状	長 15	//	○	近接して掘立柱建物・「未完成の環状列石」
14	//	// (C)	近接二重円	径 45	//	未確認	不整円・中央環状・整地
15	//	// (D)	二重円	径 36	組石	未確認	内帯と外帯の間に小環状配石
16	岩	西平内I	円?	径 40 ~ 50	組石	○	全容不明・内帯径 2.5 m列石・配石覆う整地層
17	岩	千本松	円??	径 15	組石・1.5 m巨礫	未確認	全容不明・現在確認調査中
18	岩	荒谷A	不整円?	径 35	組石・1.2 m巨礫	○?	中に長軸 7 ~ 12 mの環状配石・組石内壘棺骨
19	岩	下村B	弧状?	長 11 以上	組石	○壘棺も	溝で区画?・全容不明・石室状遺構から琥珀
20	岩	館石野I	弧状?	長 32 以上	組石・巨大立石	○	整地
21	岩	湯舟沢	∈状?	25 × 14	組石	○	
22	岩	立石	(半円)		立石式組石	○	全容不明・遺物多量

\* 8 ~ 10 は、大湯環状列石。12 は、環状列石A。

## 縄文時代後期の環状配石遺構であることを確認

### せんぼんまつ 千本松遺跡 (軽米町)

軽米町中心部の南約 2.5km、標高約 290 m の尾根の平坦面にそびえ立つ町指定の巨木「山田の千本松」(推定樹齢 260 年のアカマツ) のそばに、不自然な石が多数存在することは古くから知られていました。

昭和 49 年に行われた千本末松遺跡の試掘調査では、大小様々な石を直径 11 m の円形に並べたストーンサークルであるとされていましたが、平成 26 年度の内容確認調査で、直径約 15 m の範囲に、川原石ではなく尖ったり角張ったりした自然石を大小約 260 個ほど何処から持ってきて並べた、縄文時代後期頃の環状配石遺構であることが明らかとなりました。

配石の特徴としては、中心部は石が希薄で、直径 11 m の円周上に長径約 1 ~ 1.5 m、高さ 30 ~ 50cm 超の巨石が 4 個、等間隔に置かれ、その周辺に大小の石が特に目立った規則性はな

く並べられているようです。また、壘一枚より広い平らな巨石や立石などの特殊な石の配置も見られることから、祭祀を行う特別な広場であった可能性が考えられます。

軽米町教育委員会 藤田直行



壘一枚より広い平らな巨石

体験教室

「夏休み!みんなで考古学者2014」  
開催

7月30日(水)、31日(木)の両日、埋蔵文化財センターで開催しました。入場者は過去最高の395名でした。子供たちは「ミニ考古学者認定証」を手に大喜びでした。

来年度も同じ頃開催の予定で、入場無料です。夏休みの自由研究等にご活用下さい。遺跡や土器などについて専門家に聞くこともできます。



一番人気! 立体土器(本物)パズル

第35回 埋蔵文化財展野田村で開催

10月30日(木)～11月2日(日)まで野田村立体育館で開催しました。野田村総合文化祭の会場だったこともあり、入場者は4日間で1,757名でした。<sup>なかたい</sup>中平遺跡の現地説明会、村内遺跡出土品の展示・解説会を行いました。

来年度は、九戸村で11月初めころに開催する予定です。



カマドを  
のぞきこむ

第36回 埋蔵文化財公開講座 第17回 遺跡報告会

2月14日(土)岩手県民会館で、今回は「縄文文化に学ぶ」という通しタイトルで文化芸術講演会と共催で開催しました。

遺跡報告会は、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行った調査から、次の沿岸にある縄文時代4遺跡について報告しました。

- 力持遺跡(普代村:縄文時代の交流)
- 沢田Ⅲ遺跡(山田町:縄文時代の食)
- 浜川目沢田Ⅰ遺跡(山田町:縄文時代の住)
- 西平内Ⅰ遺跡(洋野町:縄文時代の葬祭)

公開講座は、早稲田大学名誉教授菊池徹夫先生の講演「世界史のなかの縄文文化」で、講演後俳優竹下景子さんとの対談が行われました。

これらの催しは、来年度も同じ頃開催する予定ですので、ぜひご来場下さい。詳細は、当センターのホームページ、博物館等に展示するポスターでご確認下さい。



発行 岩手県立埋蔵文化財センター  
 編集 (公財)岩手県文化振興事業団  
 埋蔵文化財センター  
 〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185  
 電話 019-638-9001  
 URL <http://www.echna.ne.jp/~i-maibun/>  
 E-mail [i-maibun@echna.ne.jp](mailto:i-maibun@echna.ne.jp)  
 発行日 平成27年2月27日  
 印刷 河北印刷株式会社